

特集

# プログラミング言語 Rubyの最新動向

## 編集にあたって

小野寺民也 (IBM 東京基礎研究所)

笹田耕一 (Heroku, Inc.)

高橋征義 (達人出版会)

いろいろなプログラム言語に精通していた松本行弘氏は、しかしどの言語にも満足することができず、それならばと1993年に自ら求めるプログラミング言語の設計と開発に着手した。プログラミング言語Rubyのはじまりであり、それから20年以上を経過した今も活発に開発が続けられている。

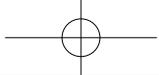
Rubyは動的なオブジェクト指向言語であり、その「書きやすさ」から、世界中に多くのファンを擁しており、1つの調査<sup>☆1</sup>によると、世界で9番目

☆1 "The 2015 Top Ten Programming Languages"  
<http://spectrum.ieee.org/computing/software/the-2015-top-ten-programming-languages>

に人気がある言語とされる。Rubyは2012年にはISO規格にもなっている。

そこで、本特集では『Rubyの基礎』、『Rubyの応用』、および『Rubyの広がり』の3つのカテゴリにより、Rubyの最新動向を紹介する。

まず、『Rubyの基礎』について、3本の記事を掲載する。「20年目のRubyの真実」(松本, 笹田)では、2003年に松本氏により本誌に寄稿された「Rubyの真実」を、12年ぶりに振り返り、これまでの経験を踏まえて、当時と同じもの、変わったものについてまとめている。次に、「Rubyの言語仕様と標準化」(中田)では、RubyのJISおよびISO標準化の意義とその過程、そして現状の課題について紹介している。プログラミング言語の標準化の紹介としても興味深い記事となるだろう。「さまざまなRuby処理系」(笹田)では、Rubyを実行するために必要となるRuby処理系について、すでにリリースされ利用できる処理系について紹介している。Rubyインタプリタは1つしかない、と誤解している方に、読んでいただきたい。



次に、『Rubyの応用』についての3つの記事を紹介する。「Ruby on RailsとWebアプリケーション開発の変遷」(高橋)では、Rubyが最も利用されている応用分野であるWebアプリケーション開発領域において、Rubyがどのように利用されることになったのかについて述べている。Rubyとともによく語られるRuby on Railsについても簡潔に紹介している。「RubyによるDomain Specific Languageの実際」(田島)は、ドメイン特化言語(DSL)として、Rubyがなぜ注目されているのか、その歴史を丁寧に解説している。「Rubyを使った組み込みソフト開発—mrubyによる組み込みシステム開発—」(田中)では、Rubyの新しい応用分野として期待されている組み込み領域について、そのためにデザインされたRuby処理系であるmrubyとともに紹介している。

最後に、『Rubyの広がり』を示す4つの事例を掲載する。「プログラミングをスポーツ少年団のように広めたい—スモウルビー開発の経緯とRubyプログラミング少年団の紹介—」(高尾)では、Ruby

を教育に用いる1事例として、Rubyプログラミング少年団の活躍を紹介している。「Rails Girlsとその背景」(鳥井)では、女性を対象としたプログラミングワークショップであるRails Girlsの活動を紹介している。「Ruby City MATSUEから始まった松江市、島根県の取り組みと成果」(森脇、杉原)では、IT振興としてRubyを用いた自治体の事例を述べている。「大手システムインテグレータにおけるRuby活用事例」(三好)では、日立ソリューションズでのRubyの活用事例について述べている。

本特集の特筆すべき点として、執筆者にアカデミア、そして本会員が少ないことである。これは、Rubyの活動領域を示す1つの指標であろう。それを補うわけではないが、最後に、アカデミアを交えた座談会「Rubyの20年、Rubyのこれから」(松本、加藤、千葉、増原)の記録を掲載する。意外と出席者にRubyが好評であったのが印象的だった。

(2015年10月14日)